

河村たかし衆議院議員 インタビュー



河村たかし衆議院議員（前名古屋市長）は自民党、日本新党、新進党、自由党、民主党を経て地域政党の減税日本を創設、名古屋市長を15年余り務めて2024年に衆議院議員に復帰。日本保守党の共同代表を務めたものの、離党。今年2月に「減税日本・ゆうこく連合」共同代表として戦うも議席は河村氏のみ。現在は無所属（会派：減税・こども）。“本音の政治家、河村氏に政治目標や高市早苗首相の評価などを聞いた。

「土農工商」社会を変え、 商売重視の実現こそが政治目標

—名古屋市長から再び衆議院議員に。
真意は。

河村たかし衆議院議員 元々総理を狙うのが目標だったからね。だが、本当は「土農工商、社会を打ち破りたい」という思いからだわ。明治維新でも変わらず、終戦時に機会があったが、GHQ（連合軍最高司令官総司令部）が財閥解体はやったが、官僚機構は残して利用し、商売は最下層のまま。それを変えるのが最大の仕事だと思ってる。

—実家は古紙回収業で、子供の頃から手伝ってきたとか。

河村氏 先祖は武士で、小田原市（旧御殿場）には河村城もあった。一族は400年名古屋に住んどうるが、父方の祖父が道楽をして、親父も尋常小学校しか出ていない。紙くず屋の仕事は小学生の時から手伝い、大変だったよ。

—商売が発展しなければ日本は崩壊すると主張しているが。

河村氏 衆議院の財務金融委員会でも指摘している。大学で「3面等価の原則」を学んだ。商売、雇用、消費によって経済は回っていくという原則だ。ラーメン屋の親父がいなくなると、ラーメンは食べられず、パートのおばちゃんも仕事を失う。商売が経済を回しているんだ。議員や官僚より農業や漁業で飯が食べることが大事なんだよ。

—旧民社党委員長だった春日一幸氏の秘書から政治家の道へ。

河村氏 親父が春日氏の支援者で、愛知県会議員選挙に出たが落選。家の商売もあり大変だった。一番威張れる仕事は検事だろうと思いい、夜間に法律を学んだ。司法試験に9回チャレンジ、択一は4回通ったが不合格。春日氏はヒューマンイズムの人だったが、娘婿を後継者にすることになり、私は党を追い出された。その後は自民党の宮沢派で落選。日本新党でようやく衆議院議員に初当選し、新進党、民主党などを経て地元名古屋の市長になったんだ。

—2月の衆院選は日本保守党を離れ、減税日本・ゆうこく連合で戦った。

河村氏 日本保守党は組織作りで、代表と考えが違った。減税日本・ゆうこく連合は当選者が私だけで自動消滅だね。いろいろあったが、減税日本は残ってるよ。

—高市首相をどう見るか。

河村氏 高市さんは新進党で仲間だった。任意の小さなグループだったが、一緒に自民党をぶっ潰そうと話したよ。住専への公金投入反対で、衆議院の第一委員会室の前で一緒に座り込んだ。写真もある。高市さんの後ろにいるのが私だ。マイナンバー制度も私は今も反対だ。もうすぐ財産管理を始めるので問題点がわかるよ。高市さんも新進党の時は絶